

どんなこと?

胸やおなか、骨などの X線検査

よく「レントゲンを撮る」という言葉を耳にする機会があると思いますが、「レントゲン」とは、ドイツの物理学者の名前です。レントゲン博士がX線を発見して以来、医療分野では積極的に利用されています。一般撮影検査では、胸やおなか、骨などの撮影をはじめ、マンモグラフィ、骨塩定量測定など、X線を使用する様々な検査を行っています。



一般撮影装置



乳房撮影装置



移動型X線装置

X線には物質を透過する性質があります。X線が体の中を透過し、X線画像となります。X線が透過しやすいもの(空気など)は黒く、逆に透過しにくいもの(骨など)は白く描出されます。現在は、IP(イメージングプレート)やFPD(フラットパネルディテクタ)を使う、CR(コンピューテッドラジオグラフィ)が主流です。またフィルムレスのX線画像(モニタ診断)も大病院をはじめ普及しています。

撮影部位によって、診断に支障をきたす恐れがある場合には、服を脱いだり、時計・メガネなどの金属等を外して頂くことがあります。ご協力お願いいたします。

妊娠されている、もしくはその可能性のある方でX線検査に不安をお持ちの方はスタッフにご相談ください。

もっと
詳しく!

I 単純X線撮影

胸やおなかなどのX線写真撮影では、心臓や肺など体内の臓器の状態などをみることができます。骨のX線撮影では、骨折や骨腫瘍などの有無、関節炎やリウマチ疾患などの診断をすることができます。他にも、造影剤を使用して消化管や泌尿器・婦人科の臓器をみる検査なども行っています。

CT検査やMRI検査などに比べて撮影時間も短く、救急時など全体像を素早く知る必要がある時にも、非常に重要な検査です。病室や手術室では、移動型X線装置で撮影を行います。

II 乳房X線撮影 マンモグラフィ(MMG)

乳房の大部分は乳腺と脂肪組織で構成されているため、エネルギーの低いX線を用いて撮影します。撮影の際は乳房を圧迫固定して撮影を行います。圧迫することによって乳房の厚さを均一にし、ボケの少ない画像を得ることができます。また、被ばく線量も減らすことができます。触診では判りにくい病気やしこりを見つけることができます。

III パノラマ撮影 歯科断層撮影

顎の骨などの広範囲な領域(上下顎同時)の撮影を行います。歯牙や顎骨の発育成長経過や状態を観察することや矯正治療の際に重要な撮影です。奥歯に炎症などがあって口が大きく開けられない患者さんにも苦痛なく撮影できます。また顎関節の動きを詳細に見るために、口を開閉して断層撮影を行うことがあります。

IV 骨塩定量検査

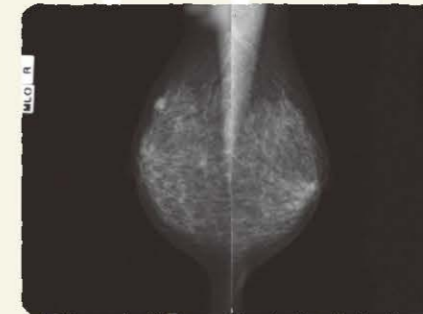
X線や超音波等を使って骨密度を測定します。DEXA(デキサ)法、MD法などいくつかの方法があります。測定方法により、測定対象部位も腰椎、大腿骨頸部、中手骨、橈骨、踵骨などと異なっています。骨粗鬆症の診断や、薬剤による骨量減少の診断、薬剤の治療効果判定などに使用されます。

V 移動型X線装置

手術後間もない方や感染症の方など病室から出ることが困難な場合、救急時において至急撮影が必要な場合などに、移動型X線装置を持ち運びX線撮影を行います。



胸部X線写真
肺や心臓、肺の間にある縦隔などの様子を知ることができます。



マンモグラフィ
乳房は左右対称の臓器であるため、左右比較することで異常を発見します。



鎖骨骨折
「↓」の部分に骨折があります。



尺骨骨折(肘)
「←」の部分に骨折があります。